

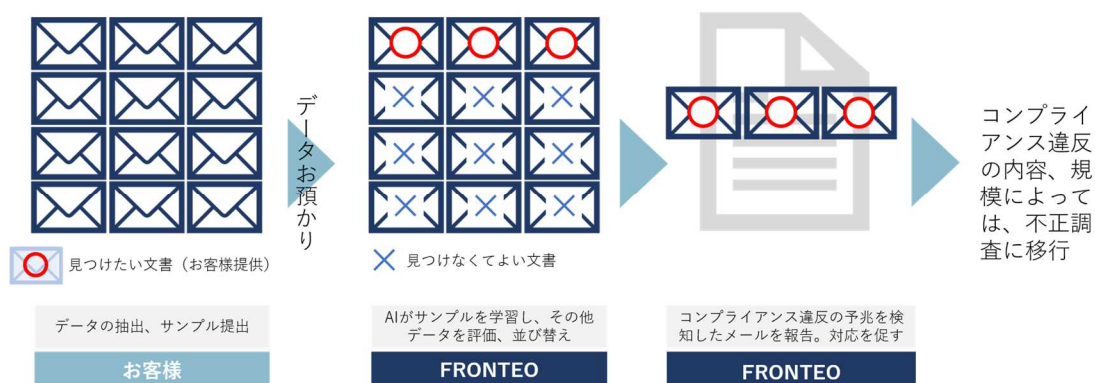
FRONTEO、AI「KIBIT」を活用した メール監査サービス「saki-mori」を提供開始 コンプライアンス違反やルールの逸脱等の予兆の発見・報告、 迅速な対応を実現

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏）は本日、自社開発AI「KIBIT」を用いたコンプライアンス違反の予兆発見・監査サービス「saki-mori」（読み：さきもり）の提供開始を発表します。当社にまとまった期間のデータを預けていただくことで、ハラスメントや経費不正請求、キックバック、情報持ち出し、カルテル・癒着など、企業におけるコンプライアンス違反やルールの逸脱等の予兆や不穏な動きの早期発見と早期対応に役立ちます。

現在、多くの企業がメールの監査を行っていますが、これらに共通する課題は、時間と労力、そして網羅性です。一度に確認できる数には限界があるため、サンプルを抽出して確認したり、キーワード検索で抽出したりするのですが、必ずしも見つけたいものにたどり着くとは限りません。

今回FRONTEOが提供開始するAIメール監査サービスでは、お客様から提供されたサンプルメールを教師データとして、膨大な量のデータを精査し、「見つけたい文書」と「見つけなくてよい文書」に分けます。さらに、統計的手法により精度を担保しながら、人が見なくてもよい文章を指定します。そのため、人が見るべき文章量が削減できるだけでなく、急を要する度合いに応じてスコアリングされるため、飛躍的に高い品質・効率での監査が可能となります。さらに、コンプライアンス違反が検知された場合には速やかに、FRONTEOによる不正調査に移行することができます。これは、これまでに、9,400件の国際訴訟支援／不正調査に携わってきたFRONTEOだからこそ提供できるサービスです。また、システムを常時走らせるのではなく、一か月単位、四半期単位とお客様のニーズに合わせて選べるのも特長の一つです。対象者も固定ではなく、都度変更できるため、一年を通じて複数部署を順番に監査することも可能です。

AIメール監査の流れ



AIメール監査の特長

- **企業におけるコンプライアンス違反やルールの逸脱等の予兆発見**：AIを使ったメール監査でコンプライアンス違反等につながりそうな予兆メールをまとめて発見
- **担当者に報告**：調査内容を担当部署、役員に報告。注意が必要と思われるメール内容を社内で精査
- **改善策の提案**：企業不正に発展する前に適切に対応、指導することで、問題の「芽」を摘み、企業の健全性を保つことが可能
- **小規模・短期間から大人数・長期間まで組み合わせ自在**：対象人数は3名程度から1,000名以上の規模まで対応でき、期間も1か月単位、四半期単位など選択可能。都度対象者を変更することも可能

目視による人海戦術の限界

メールには社内の人間関係、企業文化が色濃く表れるため、コンプライアンス違反やルールの逸脱の予兆検知には、メールの監査が欠かせません。とは言え、限られた人数で膨大な数のメールに目を通すには限りがあります。また、問題を示す文章かどうか、その表現の判断が非常に難しく、判断できるスキルを保有している人を確保するのが難しいという問題もあります。このような、時間的制約・スキルといった課題に加え、とすれば他人の挙動を覗いているような気持ちになりがちで、監査する側の精神的な負担も見逃せないポイントとなります。

AI活用で課題を解決

FRONTEOのAIメール監査サービス「saki-mori」では、AI「KIBIT」が少量の教師データを元に、膨大な量のデータの中から統計的手法を用いて精度を担保しながら「人による確認が必要な文章」と「AIが審査するもの（人が確認しなくてもよい文章）」を判断します。必要と判断されたものを担当者による確認に回すため、上記のような時間的制約、スキルの課題、精神的負担を軽減できます。

FRONTEOは、本サービスの提供を通じ、企業におけるコンプライアンス違反やルールの逸脱を予兆の段階で見つけ、企業の信用・信頼、収益に大きな損害をもたらす前段階の、社内調査で間に合う状態での対応を目指します。

- AIメール監査サービス「saki-mori」の詳細はこちら：
<https://legal.fronteo.com/aimailaudit/>
- 本サービスで使用するAIレビューツール「KIBIT Automator」の実績はこちら：
<https://www.fronteo.com/wp-content/uploads/2019/06/20190509.pdf>

■KIBITについて

FRONTEOが開発・提供する「KIBIT」は、専門家や業務熟練者の経験に基づく「暗黙知」を学習し、その判断軸に沿ってテキストデータを高い品質で効率的に評価する人工知能で、小規模な計算資源と少量の教師データによる短時間での解析が可能です。従来のテキストマイニングや検索技術と一線を画した独自の機械学習アルゴリズムを用いており、異なる表現でも類似性や文脈



を捉え、文章の特徴量を抽出できるなど、高い自然言語処理技術と実践的な結果を得られる点が高く評価されています。

■FRONTEO について URL: <http://www.fronteo.com/>

株式会社FRONTEOは、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行うeディスカバリ（電子証拠開示）や、デジタルフォレンジック調査を支援する企業として2003年8月に設立。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View（リット・アイ・ビュー）」、日・中・韓・英の複数言語に対応した「Predictive Coding（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。このリーガル事業で培われ、発展した「KIBIT」を始めとする独自の人工知能関連技術は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現します。ヘルスケアやビジネスインテリジェンスなどの領域に展開し、FinTechやRegTechに加え、「働き方改革」でも実績をあげています。2007年6月26日東証マザーズ、2013年5月16日NASDAQ上場。資本金2,559,206千円（2019年3月31日現在）。2016年7月1日付けで株式会社UBICより現在の社名に変更しております。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

株式会社 FRONTEO 広報担当 瀧川

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345 Email: pr_contact@fronteo.com